

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 19人 国語B 19人

② 算数A 19人 算数B 19人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

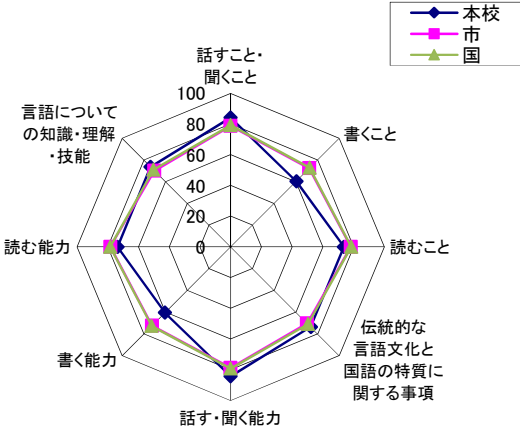
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原北小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

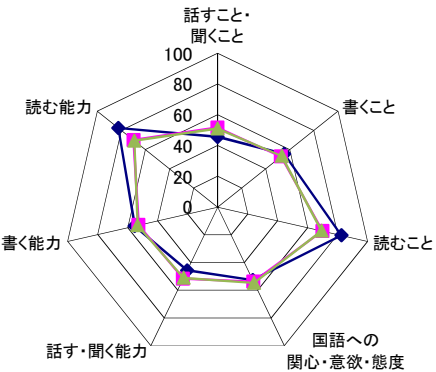
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	84.2	78.8	79.2
	書くこと	60.5	72.4	72.8
	読むこと	73.7	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.7	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	84.2	78.8	79.2
	書く能力	60.5	72.4	72.8
	読む能力	73.7	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	73.7	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	45.6	51.7	51.1
	書くこと	55.3	52.7	53.4
	読むこと	82.5	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	52.6	53.8	54.7
	話す・聞く能力	45.6	51.7	51.1
	書く能力	55.3	52.7	53.4
	読む能力	82.5	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

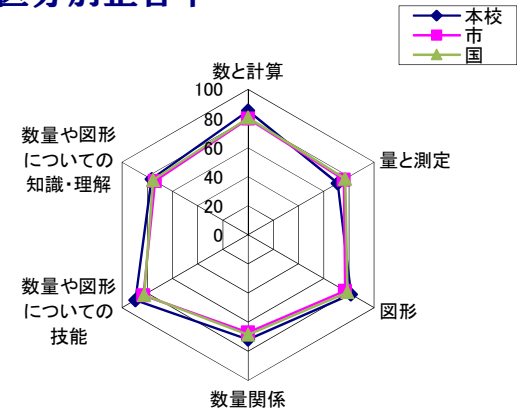
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し合いの内容から、目的や意図に応じて収集した情報を関係付けながら話し合いをしていることを理解できた児童が多かった。 ●店長へのインタビューメモを作る際に、質問したいことを整理したり、インタビューにおいてインタビューメモをもとに話の展開に沿った質問を考えたりすることが十分にできなかった。	・話し合い活動において大切なところは、メモをしたり、キーワードとなるような大切な言葉を意識して聞いたりする習慣を身に付けさせていく。 ・本校の会話科で取り組んでいる相手意識を大切にしたい実践的コミュニケーション力の育成とも関連させ、話し手の意図を捉え、話の展開に沿って、会話をしたり、質問したりできるように指導していく。
書くこと	○グラフを基に分かったことを的確に書くことができていた児童が多かった。 ●目的や意図に応じて、グラフを基に自分の考えを書くことができていない児童がいた。	・作文指導では、資料やグラフを活用する際は、それらから何が分かり、どのようなことが言えるのかを伝えるために、まず情報を正確に読み取り、自分の意見や考えを明確にしてから書かせるよう支援していく。具体的には、自分の考えや意見を簡単に書き出し、それに必要なことや関連することを付け加え、まとめていくことで自分の考えを整理していけるようにする。
読むこと	○説明文では目的に応じて本や文章を比べて読むなど効果的な読み方の工夫ができていた。 ●物語文では、登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉えることが困難な児童が見られた。	・説明文、物語文ともに漠然と読んでいることがあるので、叙述に即して丁寧に読む習慣を作っていく。自分が読み取ったこと、考えたことは文章の中でどの部分、言葉、叙述に即しているのか、明確にするためにサイドラインを引くなどの工夫をしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字については読み、書きともにまずまずの成果である。 ●平仮名で表記されたものをローマ字で書く問題では、促音の表記ができない児童が多かった。	・漢字の読み、書きについては、より定着するよう、漢字の書き取りを中心に復習していく。その日習った漢字や前日宿題で復習した漢字が身についているか確認するため、朝の時間、帰りの会のわずかな時間を活用し、確認テストなどを計画的に行う。 ・ローマ字の促音の表記の仕方を復習し、反復練習していく。

宇都宮市立清原北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

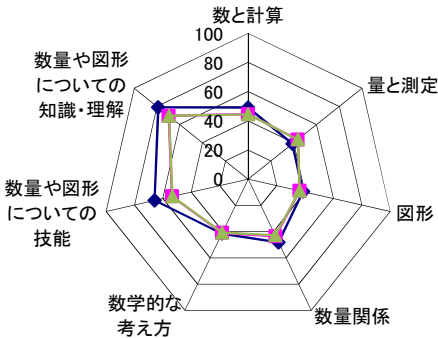
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	85.3	79.9	80.5
	量と測定	71.1	75.9	77.0
	図形	81.6	76.9	78.8
	数量関係	71.9	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	89.5	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	76.6	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	49.1	44.5	44.4
	量と測定	38.9	43.5	43.7
	図形	38.6	36.2	36.3
	数量関係	48.2	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	41.5	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	65.8	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	78.9	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○●平均正答率は、全国や県を上回っているが、計算に小数が含まれていると計算の過程でまちがってしまう児童も見られた。	・小数を含む計算で間違ってしまう原因は、小数の乗法及び除法の意味や計算の仕方について正しく理解できていないと考えられるため、授業や宿題の中で小数を含む計算が出てきた時は、確認していく。小数の計算は、面倒だという感覚がある児童もいるため、丁寧に計算することでミスを減らしていけるようにする。
量と測定	●単位量あたりの大きさを求める問題が算数A、Bともに正答率が低かった。Aにおいては、1㎡あたりの人数を求めるための除法の式が立てられない児童が多かった。Bにおいては、図形に関するわり算の式の意味を説明できない児童が多かった。	・わり算の意味と関連付けて、単位量あたりの大きさを求める式の意味が理解できるように、授業の中で復習する。また、二つの量を図などに表し、面積と人数の関係を視覚的に捉えられるようにしていくことで立式ができるようにしていく。 ・授業の中で、考える時間を大切にし、答えを導き出すための過程を大切にする。また、筋道を立てて説明できるように示されている条件から、分かることを一つ一つ解決できるようにする。
図形	○●図形に関する問題については正答率が高かったが、立体における面と面の位置関係が理解できていない児童も見られた。	・立体の学習では、立体の性質や特徴などの指導は継続して行っていくが、その際に実物を活用するなど体験的な学習活動や操作的な学習活動を取り入れ、実感を伴う学習にしていく。
数量関係	○●算数A、Bともに正答率は、全国や県を上回っていたが、割合に関する問題においては、つまづいている児童も見られた。	・割合の意味やそれを使った計算方法を理解できるように繰り返し、復習していくことが大切である。また、割合は日常生活においてよく使われる内容であるため、日常生活において割合が活用されている場面を取り上げ、求めていくような指導の工夫も必要である。

宇都宮市立清原北小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」、「家で、学校の宿題をしていますか」では、肯定的な回答の割合が100%である。放課後等活動(KASA)での学習が反映されているが、家庭と連携し、帰宅後も計画的に学習していく習慣を身につけさせていく。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」、「学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか」の肯定的な回答の割合が100%であり、良好的な人間関係が築かれているが、人間関係のつまづきなどに対し、早期発見、早期対応を心がける。

○「学校のきまりを守っていますか」、「友達との約束を守っていますか」の肯定的な回答の割合が100%であり、規範意識が育まれている。学校の一員、社会の一員としての自覚を高め、責任のある行動をとれるよう、引き続き指導していく。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」では、肯定的な回答の割合が高くない。学区外から登校している児童が多いということもあるが、地域社会の大切さやありがたさなどについて理解させ、地域社会の一員として自覚を高めていく。また、学年だよりなどで保護者の方にも啓発していく。

●「新聞を読んでいますか」では、肯定的な回答の割合が高くない。社会の出来事に関心をもたせるためにも、まずは自分の興味がある記事でいいので読む習慣をつけさせていく。また、考え方が広まったり、深まったりするなど、新聞を読むことの利点について指導する。学年だよりなどにより、家庭にも啓発していく。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」では、肯定的な回答の割合が高くない。恥ずかしい、自信がないなどの理由が考えられるため、まず、「できた」とか、「分かった」という体験を通し、自信をつけさせていく。また、学級で発表しやすい雰囲気づくりに努めていく。

●国語B、算数Bともに「調査問題の解答時間は十分でしたか」についての肯定的な回答の割合が高くない。与えられた時間の中で、見通しをもって解く習慣をつけさせていく。